

産地として選ばれる“なのはな米”1等米比率3年連続90%以上を目指して

これからは夏の高温に打ち勝ち、品質の高い米を生産する稲体づくりに向けて、充実した太い茎を確保するための重要な時期となってきます。次の作業をしっかりと行いましょう。

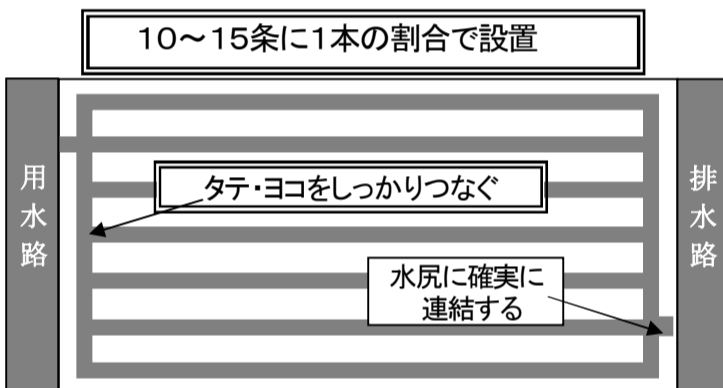
- ①中干しまでは『**浅水管理**』を徹底し、初期分けつを確保しましょう。
- ②中干しを効果的に行うため、『**溝掘り**』を確実に実施しましょう。
- ③田植の1か月後頃を目安に『**中干し**』を開始し、無効となる分けつを抑えましょう。

中干しまでの水管理

- 中干しまでは、水深2~3cm程度の『**浅水管理**』を行い、初期生育を確保しましょう。  
ただし、強風や低温時にはやや深水にしましょう。
- 入水は朝か夕方に行い、日中は止水で田水温の上昇に努め、分けつを促しましょう。
- 藻が発生している場合は、水の入れ換えを行きましょう。  
また、田がわいている場合は、1~2日程度、軽い田干しを行きましょう

溝掘り

中干しや、その後の間断かん水を効果的に行うため、6月上旬までに必ず『溝掘り』を行いましょう。



溝掘りをしないとほ場内で生育や土の硬さのムラができ、排水が遅れ適期収穫に支障をきたす恐れがあります。



溝掘りをしなかったほ場の収穫時の水たまり

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、10~15条に1本の割合で溝を掘る。
- ・タテ溝とヨコ溝をしっかりとつなぎ、水尻は確実に連結する。

中干し

6月は必要な分けつ以上に分けつが急激に増加します。**田植えの1か月後頃を目安に遅れず『中干し』**を開始しましょう。また、出穂後20日間の湛水管理に備え、コンバイン作業の地耐力の確保のため、この時期に確実に田面を固めましょう。

①中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月10日頃
5月15日	6月14日頃
5月20日	6月18日頃

適切に中干しを実施すると…

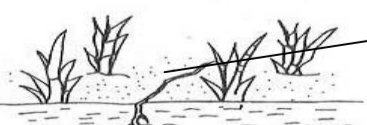
- ・葉が直立
- ・茎が太い
- ・根量が多い



②中干し程度

普通乾田

→ 長靴が沈まない程度の中干しで  
期間は3~5日間程度が目安

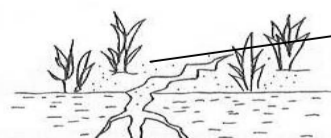


田面に小さな亀裂ができるまで

排水の悪いほ場では、事前に軽い田干しを行いましょう。

水はけの悪いほ場や粘土質、大豆跡田

→ 強めの中干しとして  
期間は5~7日間程度が目安



田面に大きな亀裂ができるまで

干し過ぎると、稲の生育にダメージを与えます。数回に分けて適度に田干しを行いましょう！

裏面へ続く

## 中干し後の水管理

中干し後から出穂までは、湛水と落水を繰り返す『**間断かん水**』により、土壌硬度を幼穂形成期までに足跡の深さ3cm程度に誘導しましょう。

(間断かん水で土中のうわ根をしっかりと伸ばしましょう。)

## 珪酸質資材の施用

登熟を高めるため、珪酸質資材を施用しましょう。特に肥効調節型基肥の場合はカリ成分が少ないので、この追肥で補給して下さい。

施肥体系 (使用基肥肥料)		肥料名	10a 当たり施用量	施用時期
分施	(なのはな有機基肥)	エスアイ加里特号	10～20kg	6月中旬～下旬
	(燐加安15号)	太陽のめぐみ	20～40kg	
肥効調節型基肥 (なのはな一発基肥など)		エスアイ加里特号	20kg	
		BBPKケイ酸	20～40kg	

## 後期除草剤の散布

○雑草が残った場合、雑草の葉齢を確認し遅れずに散布しましょう。

また、除草剤の効果を高めるため、散布前に軽い田干しを行い、水の入替えを行ってから散布しましょう。

○除草剤散布の際には、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

### 除草剤使用基準 (移植水稻の場合)

雑草の状況	除草剤名	散布量 10aあたり	散布時期	使用回数	使用上の注意
<b>ノビエ</b> が残った 場合	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	田植後7日～ <b>ノビエ4葉期</b> まで (収穫30日前まで)	2回 以内	・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、 7日間は落水・かけ流さない
		1.5kg	田植後25日～ <b>ノビエ5葉期</b> まで (収穫30日前まで)		
	ヒエクリーン 豆つぶ250	250g	田植後15日～ <b>ノビエ3.5葉期</b> まで (収穫45日前まで)	1回	・散布の際は、やや深めの湛水状態とし、 水田周縁部に沿い散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、 7日間は落水・かけ流さない
<b>広葉雑草</b> が残った 場合	バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15～50日 (収穫60日前まで)	1回	・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで 散布する ・散布後3～4日間は田に水を入れず、また 降雨によって薬剤が流出しないよう水尻は 必ず止めておく ・スポット散布も可
<b>ノビエと 広葉雑草</b> が残った 場合	ワイドアタックD 1キロ粒剤	1kg	田植後20日～ <b>ノビエ5葉期</b> まで (稲4葉期以降) (収穫60日前まで)	1回	・散布後、5日間は湛水状態を保ち、田面を 露出させない ・完全に枯死するまでに3週間以上を要する ことがある
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ <b>ノビエ5葉期</b> まで (収穫50日前まで)	2回 以内	・落水状態で雑草の茎葉に確実に付着する よう丁寧に散布する ・散布後3～4日は入水、落水をしない

### ★なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています★

<情報提供内容>

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報や災害防止対策、栽培管理等の情報
- ・その他必要と思われる情報

★営農情報提供サービスへの  
登録はこちらから  
(QRコードにスマホ等を  
かざして必要な情報を  
登録してください)

